

学歴なし、フリーター生活、転職を繰り返していた 30 代男 が 金なし、時間なしの「ワーキングプア状態」から インターネットビジネスで年商 1 億を達成するまでのストーリー

◆26 歳頃まで浮き草生活 30 歳を目前にして貯金ゼロ。当然、将来への不安だらけ...

- ・学歴は地元の専門学校卒 自慢できるような資格、経歴、いっさい無し
- ・地方育ちにありがちな上京ストーリーを夢見るも挫折
- ・転職、フリーター生活を繰り返す
- ・26 歳で「人生をやり直そう！」と思って就職した先でも全く芽が出ず、これぞワーキングプアという生活にハマる事に...

このように、私は典型的なダメでいい加減な人間でした。

もちろん、どの場面でも本人なりに必死なつもりではありましたが、振り返ってみると、本当に甘えだらけの、完全なダメ人間思考の持ち主でした。

◆学生時代 勉強・進学なんて全然価値が無い と考え、全く勉強しない

小さい頃から勉強が嫌い、というより「勉強をする事の原因が全くわからない」ので、学生時代は小学校から専門学校まで全て、学校が終わったら友達と遊ぶか、家に返ってそのときどきにハマっている趣味に没頭する...という生活でした。

なので、受験勉強というものを経験した事ありません。

私の家は、サラリーマンの父と、生活雑貨店でパートで働く母の共働きの、ごく一般的な家庭でした。

両親とも学歴はありませんが、人間は誠実で、仕事に対する向き合い方や人への接し方については、小さい頃から尊敬するところがありました。

父は、地元ではそれなりの知名度のある会社の、創業時からのメンバーであり、営業マンとしても優秀だったようで、よくボーナス時期に、表彰のトロフィーやら大きな花束を持って帰って来ていました。

そんな父が、会社の部下の方を家に招いてお酒を飲んだり、お正月に親戚の家でお酒を飲んでいるときに言うんですね。

「学歴なんてなくても、努力さえすれば必ず報われるもんだ。」

と。

こういった「なんだかんだ言っても、これが真実だ」的な話を、小さい頃から身近で聞かされていると

「じゃあ学校で勉強なんてしてもなんの意味もないじゃん。」という気持ちが、年々、心にすり込まれていきました。

そして、中学生の頃、夕食の食卓で両親がしていた、あるなにげない話をきっかけに、

「勉強なんてしなくていい = 進学しなくていい」
という考え方が自分の中での確信に変わりました。

「Mさんところの息子さん、大学を出て〇〇に就職したらしいんだけど、月の手取りは17万円くらいなんだって。今の世の中、なかなか厳しいものだね。」

「で、Iさんところの息子さん、高校を出て、アルバイトしていた建設業のところに、そのまま就職したんだって。それでも、手取りで25万円くらいもらえてるんだって。」

私はこの話を聞いて思いました。

「は？ならなんで大学行く必要あるの？大学って、なんか、頭のいい人だとか、しっかりした人だと見られたいために行くところなの？高校出て就職した金髪の兄ちゃんに給料で負けるような世界に、なんで努力して行かなくちゃならないんだ？しかも卒業までに4年で数百万円学費がいるとか。なんじゃそりゃ。おかしいだろ。」

と。これで私の中の 勉強・進学 というスイッチは完全に切れました（笑）

こういったある意味「自分の中での真理」にたどり着いたので、以降も、学生時代に真剣に勉強をした事など一度もありません。

こうして、進学率全国ナンバーワンの富山県に生まれながら、全く勉強をしない事に、若くして悟りをひらいた一人の人間が出来上がりました。

◆しかし、やはり社会に出てから人生に迷う

そして一切勉強しない人生の最終学歴である専門学校を卒業し、ついに私も20歳となり、就職をする事になりました。

しかし「将来何をしたいのか？」という事など全く考えていなかったですから、仕事というものの捉え方は「生きていくためのお金を稼ぐために、嫌だろうがなんだろうがするしかないものだ。」という程度のものでした。(多くの学生がそうでしょうが...)

なので当然、働いている事にモチベーションも上がりません。(最初からありませんので。) 頑張れば、ちょっとボーナスとか上がるのかな...? じゃあ少しは頑張ろうかな... という程度のものでした。

当時、友達の影響でスポーツカーが好きになり、20歳の分際で、マツダのRX-7という当時で350万円くらいする車をローンで買っていたので、嫌だからといって簡単に仕事を辞めるという選択はありませんでした。

その会社は、非常に人の入れ替わりの激しい、労働時間も長い会社でしたが、良い先輩たちもいたお陰で、つらい中に楽しさもあり...という感じで、ごくごく普通の一般的社会人としての生活を送っていました。仕事は常に忙しく、一生懸命やっていたので、少なくともごく一般レベルの同年代サラリーマン程度には頑張っていました。

しかし、3年くらいが経過した頃、友人も結婚をする人間が増えてきて、自分自身も、縁があれば急にそういう事になったりもするのかな...と思い、これからの自分の将来というものを、少し真剣に考えるようになりました。

すると

「一生この仕事をしていくのか？」

「何か人と違った事にはチャレンジしてみたい!と思っていながらも、結局平凡なサラリーマンで一生を終えるのか？」

という気持ちがどんどん強くなってきました。

(当時の人生観では 結婚 = そこからはもう転職や独立はムリ と思っていたので)

この頃は会社の中のいろいろな問題で、かなり仕事も嫌になってきていたので、「頑張っても報われない」「自分ばかりつらい」「会社は何もしてくれない」という不満も、日に日に強くなっていきました。(今思えば身勝手な不満ですが。)

そしてついに、「自分で本当にやりたい事を見つける！」というもっともらしい理由を掲げ、親には大反対されながらも、約3年半でその会社を退職しました。

◆退職後、フリーターですらない パチスロ で生計を立てる毎日に

「やりたいことを見つける」という偉そうな大義名分を掲げてはいるものの、結局は、現状が嫌になっていてそこから逃げ出したかっただけなのですよ。なので、退職してからどんな生活をしていくか？という事も考えずに退職しました。本当に、いい加減なものです。

しかし「自分の人生をなんとかしたい！もっと有意義でやりがいのある毎日を送りたい！」という気持ちは、いい加減なものではなく、本当にかなり強くなっていました。

とはいえ、何かを目指して勉強をするのにしても、その期間を食いつなぐ最低限の仕事はしなければいけないので、どうしたものか...?とっていました。

そんな中、高校の同級生がたまたま家に遊びに来て、「パチンコで最近すごく勝っている」という話が出ました。その友人は自動車整備工をしていたのですが、パチンコでも月50万円ほど勝つ事もあるという事で、どうすればそんなに勝てるのか、そんな事が本当にありえるのか、ぜひ教えてくれ！と頼み、それについての基礎を教わりました。

そして結論から言うと、約3ヶ月後くらいには、パチスロだけで、前職の給料の倍くらいの金額を稼げるようになりました。

もう15年くらい前の話になりますが、当時はパチスロが「技術介入要素」という、打つ人の知識やテクニックによって、出玉が大きく変わる機種があった時代で、そのテクニックがあれば、店舗側がいわゆる「回収台(最低設定の1)」としている台ですら、理論上はプラス計算になる機種が多くありました。

そういったある意味裏技的な攻略方法が、普通にコンビニで売っている月刊のパチスロ雑

誌に当たり前に書かれていました。今考えれば、すごい時代ですね。

(なので、私も友達から教わったのは最初の一步だけで、後は雑誌で勉強しました。)

「パチンコで生活が成り立つ」という自分のそれまでの人生の中で、最も奇妙な体験をする事となったのですが、約1年半この生活をする中で、ものの考え方がいろいろ変わっていきました。

この期間に、言い過ぎではなく「人生観が変わる」体験や知識を吸収する事ができました。

運不運でものを考えない 全て自分次第 現状は全て自分の過去の行動の結果である

パチスロ生活は最初は過酷でした。タバコ嫌い、騒音も嫌いでしたので、まず普通に毎日がとても疲れました。そして、勝つときもあれば、1日で8万円くらいのお金が消える事もあり、お金の使い方については、無駄遣いしない堅実派の私にとっては、その精神的ストレスがかなりキツかったです。

ですが、半年くらいして「最終的に自分は勝つ」という事を信頼できるようになってきたからは、このストレスもかなり軽減され、よりクレバーに「仕事として」という感覚で、パチスロに取り組むようになってきました。

そして、このパチスロ生活において、その後の人生観を変える印象的な体験のひとつに、このような出来事がありました。

ある日、私は朝から近所のNランドというパチンコ屋でスロットをしていました。朝一番で座った台を検証して、低設定であるという事が確定したので、その席を離れ、別の台へ移ったところ、そこでジャンジャン出ました。

そして、時間は18時頃になり、会社帰りの人たちが来店しはじめました。ここで、25歳くらいの土方の格好をした兄ちゃんが、私が朝、低設定と見切って捨てた代に座りました。

そして、そこから2時間ほど打つのも一度も当たりが出ず、おそらく3万円ほど負けて、「ついてねえな！くそ」と言って、その台を叩いて椅子を蹴っ飛ばして帰って行きました。

私はそれを見ていて、

「それは不運でも何でもなく、当然の結果だよ。負けるべくして負けたんだよ」

と心の中で思いました。

そしてその夜、家に返ってきてから日課にしていた、パチスロの結果の日記に、その出来事について書いているときに、ふと思いました。

「今日見た兄ちゃんの姿、持っていた不満は、自分は頑張っても報われない、ついてない、アンラッキーな人間だ、なんで自分ばかりこんなにつらいんだ...と思って生きてきた、社会人になってからの自分と全く同じじゃないか。」

学生時代に勉強をしていない、何にも頑張ってきていない、就職しても3年で辞めている

- = だから給料も安かった
- = だから充実感もなかった
- = だから夢もなかった
- = だから良い会社に入った友達がうらやましかった

全部「自分のやってきた事の、単なる結果じゃないか。」と。

よく考えれば今の環境にある事は、不運でも何でも無い。

自分が頑張ってこなかった人生の答えが、
1+1=2 みたいに単純に、自分の今の人生になっているだけだ。

そんな自分が、不満だ、不運だ、報われない、と言っている事自体が、
図々しいにもほどがあるじゃないか、と。

そして、その頃読んでいた心理学の本と、その体験がリンクする

そして、この体験をした頃、ちょうど速読の勉強をしていて、それがきっかけで、加藤諦三さんという心理学者の方の本を読むようになっていました。単なる速読のトレーニングの為と思い、何も考えずにブックオフの 100 円の棚からまとめて取ったのがきっかけだったのですが、何冊も読み進めるうちに、

「常に不安、不満を感じている人間の特徴」

「甘えの心理を持つ人間の状態」「神経症の人間の特徴」

などの内容が、まさにこれは自分の事じゃないか...とハッとさせられ、以降、単なる速読トレーニング用の本としてではなく、真剣に読むようになりました。

そこからは自分の人生の迷いや不安を解決する答えがここにあるような気がして、この加藤諦三さんの本を、古いものから新しいものまで全て読みました。

結果、日々、自分を苦しめていた迷いやストレスの原因にたどり着き、これをきっかけに、まさに「第二の自分に生まれ変わった」ように、人間関係や人生におけるものの考え方が、大きく変わりました。

- ・パチスロから得た「人生に運不運などはない。全ては自分の捉え方次第」という考え方
- ・加藤諦三さんの本から得た「自分の人生は絶対に誰のせいにもしない。自らの意志で選択して切り開く。」という考え方

この体験以降、ナポレオン・ヒルの書籍を何冊読んでも腑に落ちることの無かった「ポジティブ思考」を持つ事が、自然とできるようになっていきました。ポジティブ思考というよりも、日々の無駄なストレスや不満などがなくなっていったので、「ネガティブ思考にハマる事が無い状態になった」という方が近いかもしれません。

第三者から見れば、単なるダメ人間生活のパチンコ生活という環境の中にありながら、ダメ人間ながらももがいて考えた結果に降りてきた、私にとっては「天啓」でした。

この2つは、本当に私の人生を変えました。

(特に加藤諦三さんの書籍から得た学びは本当に大きかったです。お会いした事はありませんが、人生最大の恩人のひとりだと思っています。)

そして、このパチスロ生活1年半の間には、自分なりの人生を好転させる取り組みとして、下記のような事をしていました。

- ・ユーキャンで中小企業診断士の通信講座を受講
- ・パチンコは予想の8割勝った日は無駄に粘らず帰り、勉強時間を作る。
- ・速読のトレーニング
- ・500冊以上の読書（ビジネス、自己啓発、心理学、健康 などが多かった。）
- ・毎日 剣道の素振り100回、腹筋、腕立て50回
- ・食事はお腹いっぱい食べない（眠くなり非効率）
- ・睡眠は四時間半 or 六時間（短眠法の本からの学びで）

完全なる自由業で時間は自由に使えたわけですが、この期間、ほとんど友達と遊ぶ事なく、自分の決めた事に取り組んでいました。

そして、パチスロ生活をはじめてから1年半後、その生活をやめる事を決意します。

結果、パチスロではトータルで600万円以上は勝っていたと思いますが、せいぜい年収でいえば300万円台レベルの話ですので、普通に年金などを払い、生活費や自己投資に使っているお金を差し引くと、そこまで貯蓄ができたわけでもありません。

そして、その後は、以前から一度経験してみたいと思っていた職種でのバイトを、朝晩で別々に掛け持ちし、約1年ほど、いろいろな仕事を経験をしました。

しかし、やってみたら、どれもそれなりに楽しいながらも、これといって自分が本気でやりたいと思う仕事ではなかったので、そこで出ている正社員登用の話なども断り、職安に行って、再就職を探す事にしました。

何かを見つけたいと思い、3年間もがいて色々な事をやりながらも、

結局、再就職という振り出しに戻るような選択となりました。

そして、もう年齢も26歳になっていますから、ここからそう転々とする事はできません。

依然、やりたいこと、夢などは見つからないままでしたが、

「これが最後の就職 骨を埋める覚悟でいかないと」という気持ちで、職探しをスタートしました。

26歳で再就職 それまでの人生の中で、心身とも最も過酷な3年間を送る事に

そして、再就職した会社は、事務機器販売の会社で、業務用のコピー機販売がメインの会社でした。そこの技術サポート部門に配属され、人手が足りない中での欠員補充という感じでしたので、完全未経験の状態から、メーカーで5日間研修を受け、先輩と同行する期間が2週間程度あった後は、もう一人で現場を回る状態になりました。

はじめて見る大きな会社の大型の業務用機械の前に、手渡されたマニュアル1冊を手に、「修理に来ておきながら、さらに壊してしまわないか...」と、本当に冷や汗をかきながら仕事をしていた事を覚えています。

前職同様、ここでも先輩社員のみなさんは親切な方が多く、時間があるときは丁寧な指導をしてもらえましたが、日々、人手が無い中での活動になっていて、ひとつひとつの仕事にあたる際、「その問題がどうして発生したか？」という事などを細かく検証している時間がなく、毎日やっつけ仕事で走り回っているような状態になりました。

そして、入社してから約1年半くらいが経過した時に、私の所属する技術サポート部門のリーダーが、私生活での怪我で長期入院となってしまう、実質、技術部門の人間が、入って1年半程度の私と、入社してまだ間もない新入社員の2名という、大変な状態になりました。

3年前は、メーカーのサポート社員を含めて5名で管理していたという仕事を、「経験の浅い人間2名」という体制でこなす...いや、それはどう考えても無理だろう...

それでも「この会社が最後の就職先」という覚悟を持って、日々精一杯仕事に取り組んでいましたので、この危機状態を自分の手でなんとかしのぐ事ができたら、会社もきっと自分を評価してくれるだろう。

「よし！これは不運と思わず、チャンスと思い、精一杯頑張ろう！」と決意しました。

そして、朝、早い時は5時台に出社をして準備をして、遅いときは夜中の2時過ぎまで働いていました。もちろん、夜中の2時までかかるような状態は、仕事が正常に回っていない状態ですので、それだけ頑張っても、翌日への繰越が必ず出ています。

基本的にコピー機やFAXの出張修理というのは、

「機械が壊れた = お客様の仕事が中断されている = お客様に迷惑をかけている」

という状態なので、修理に行った段階で「ご迷惑をおかけしております」と謝罪をするところからスタートです。

訪問するのが遅れる、修理完了するのが遅れるだけ、お客さんにご迷惑がかかり、ご不満も募るわけですので、到着した段階で、開口一番にきついお叱りを受ける事も多々あります。

人手不足の中、このような悪循環のサイクルに入り、元々体があまり強くない新入社員の後輩も疲労とストレスから休みがちになり、私も心身ともかなり限界にきていました。

毎日、お客さんに謝って回るのが仕事のような感じになり、私も神経性の下痢になり、ストレスで食事も喉を通らず、食事は深夜に帰宅後の1日1食状態になっていました。

そんな中、家庭環境にも大きな問題が発生しました。

以前から兆候のあった祖母のアルツハイマーがひどく悪化してしまい、家庭内環境までもがかなり厳しい状態に陥りました。

仕事で疲労とストレスの限界に達して家に帰っても、家庭内もヒステリックな状態になっていて、肉体的にも精神的にも極限のまま、週末も休む事のできない状態が何ヶ月も続きました。

この先に過労死ってやつがあるのだろうか...と思う体験をする。

このような状態が数ヶ月続くと、さすがに気合と根性で乗り越えてきた体にもガタが来ました。

ある冬の日、朝の5時から出社し、県内を走り回って仕事をし、最後に県の端のあるコンビニのコピー機の修理に行きました。これは非常に問題の多い機種で、このときの修理にもかなり手こずり、完了して出たのが夜の23時過ぎでした。

朝の5時から無休憩、食事は取れずジュースでの水分補給のみ、ストレスと疲労の限界に達して、会社に戻るために高速道路に乗りました。

冬の雪が振っている中でしたので、車の中もまだ暖まりきってなくて、寒さからくしゃみが出ました。そして、このくしゃみをしたときに、気を失いました。(高速道路の上で..)

くしゃみをした後だとか、しゃがんで立ち上がったときの立ちくらみのような症状の、ヒドいやつですね。やはり疲労の限界だったのか、あれの気を失うレベルのが来ました。

幸い、タイミングが高速に乗ったばかりの道幅が広いところだった事と、雪が振っていた事もあり、全くスピードは出していませんでしたので、路肩にタイヤがズザザッとなっただけで済みましたが、もっとスピードが出ていたらどうなっていたか、後続車がいたらどうなっていたか...と思うと、本当にゾッとしました。

意識が戻ったあとも「う、やってしまった。これって、警察呼ばないとダメか？いや 119？」などと、よくわからないパニック状態でした。

そのまた後日、今度も同様に早朝から働き、夜中の2時半頃に家に帰ってきました。帰ってきて、何か食べようと思ってキッチン収納の棚を開けると、ちょっと前に買って入れておいて忘れていた、1.5倍増量 激辛豚キムチなんかというカップラーメンがありました。

これにお湯を入れて食べたのですが、一口食べて自分でもビックリしました。

「**激辛ラーメンの味がまったくくしない**」のです。

食べている感覚も何も全く何も感じないという事はないのですが、明らかにだいぶ辛いはずのそれが、味の薄い味噌汁みたいに感じるのです。

疲れの限界で頭もかなりやられているので、なんだか変な笑いが込みあげてきました。

「ははは、本格的にやばいな、俺。これは。ははは」みたいな感じで。

その後、さすがに会社の体制の見直しがされて、異常なレベルの労働時間がずっと続く状態からは脱し、祖母も入る病院が決まり、なんとか極限状態は脱しました。

今思い返してみても、あと1ヶ月あの状況が続いていたら、頭か体のどちらかが、本格的におかしくなっていたらと思います。

パチスロ時代に得た人生観と、加藤諦三さんの本の教えによって、

「**全ては自分の捉え方次第。誰のせいにもしない。誰にも依存しない。**」という心の土台ができていなければ、おそらくうつ病にでもなっていたと思います。

本当に、それまでの人生で最も過酷な期間でした。

このままでは自分はまともな家庭を持つ事できない 家族も幸せにできない と思う

この期間、アルツハイマーとなった祖母を受け入れてくれる施設を探す事で、両親がとても苦勞をしているのを見ていました。入居できたとしても、施設に預けるお金もかかり、定期的に着替えなどを持って通う必要もあり、なんと大変な事かと感じました。

そしてこれは、不幸で訪れた事ではなくて、年月が進めばどの家庭にでも普通にやってくる話です。そんな体験の中、私は今の仕事を続けていって、現在の父親と同じ年齢になって、親の介護をする自分を想像してみました。

今の会社であと20年働いても、貯蓄はおそらく父親の3分の1もできないだろう、土日祝に正月の呼び出しもあるような仕事の中、どうやって家族の病院を探せるだろうか？自分自身が疲れきっていて、親の介護を嫁さんにみてもらい、嫁さんもボロボロにしているかもしれない...そして、そうなったらもうその段階から、その状況をなんとかする事はムリだろう。気力も体力も経済力もなく、つらい現状を受け入れながら、大変だ、大変だ、と愚痴をこぼしながら生きる毎日になるのではないか？

...いや、なるだろう。間違いなく。

このとき、はっきりと「このまま行ったら俺の人生は終わる」と感じました。完全なるリアリティを持った、人生で初めての「本物の危機感」でした。

25歳を超える頃から、少しずつ人生を真剣に考えるようになり、思い描いていた、

- ・結婚をしたら、嫁さんや子供と、心安らかに暮らしたい。忙しい、お金がない、でピリピリした家庭は絶対に嫌だ
- ・両親や親戚、友人に何かあったときに、助けてあげられるお金と時間の余裕を持ちたい
- ・いつか自分でビジネスをしてみたい。そして自分が「これが俺の天職だ！」と思えるようなやりがいのある仕事をしたい

という思いとは、あまりにもかけ離れた現実、日々、不安や、焦る気持ちが強くなっていきました。

またその後の人生に悩み、そこでインターネットビジネスと出会う

会社では、つらい期間を精一杯頑張ったつもりでしたので、次の昇給などはちょっと期待していました。しかし、その評価は、正直悔しいものでした。でも、会社の事を考えてみると、修理の部門が忙しかった事で、会社の利益が上がったわけではないので、それも仕方がない事なのかとも思いました。ただ、上記のような、かなり過酷で、心身とも極限の状態に追い込まれながら頑張った後の評価としては、本当に悔しくて、思いっきり落胆したのを覚えています。

「でも、これも仕方の無い事。会社の事情もあるだろうし、会社のせいにはできないし、しても自分の人生が良くなるわけでもない。自分で頑張る気持ちを持って、また新たに人生を切り開いていくしかない」と、また気持ちを新たにしました。

インターネットビジネスに出会い、興味を持つ

そこからは、また「今の仕事を続けていて良いのだろうか?」「これからどうやって生きていこうか?」という考えが、毎日頭の中で、モヤモヤ、ぐるぐるしていました。

そして、あるとき、よく行く近所の本屋さんのビジネス書の新刊コーナーに行ってみたら「自宅でパソコン1台で主婦が30万円稼ぐ」というような本があり、なんともあやしいと思いつつも、私はその本を立ち読みした際に強い興味を持ち、それを購入し、その夜、いっきにその本を読みました。

これが「アフィリエイト」について書かれた本でした。

私にとってはこのアフィリエイトというものが、かなりの衝撃でした。

「仕入れもせずに行えて、個人でもできる、こんな理想的なビジネスがこの世にあるのか！」

インターネットそのものの経験もまだ浅かった私としては、なんだかそれが夢物語の世界の架空のもの?というような感覚もあったのですが、まずはこれにチャレンジしてみるしかない!と思いました。

そして、さらに関連書籍も何冊か購入し、ファーストステップにあたる、ホームページ・ビルダーで自分のホームページを作る事を始めました。

昔から「自分のアイデアで商売をしてみたい！」という気持ちが強かった私は、インターネットの中にでも、「自分のお店ができた」という事だけで、本当に嬉しくて楽しくて、以後、会社から帰ってきてからは、アフィリエイトの勉強と作業に没頭するようになりました。

アフィリエイトというのは、本気でやれば、どうやら現実に月 10 万円くらいは稼げるようになるんじゃないか？という事を、いろいろ情報収集をしていく過程で感じました。

インターネットで初の 8,000 円を稼ぎ 狂喜する

そしてついに、私が人生で初めて作ったサプリメント情報のホームページを経由して、初の注文が発生しました。なんと、初の報酬で 8,000 円という、当時としてはなかなか大きいラッキーパンチからのスタートでした。

もう私は、嬉しくて嬉しくて興奮して、A8 ネットというアフィリエイトの運営会社に、「このお金、本当にもらえるんですか！？設定した口座に振り込まれるんですか？ありがとうございます！！！」とメールし、販売元のサプリメントメーカーにも、「本当に嬉しいです！！ありがとうございます！！」と熱烈な勢いのメールをしてしまいました。

そして、この体験で「ネットで本当に稼げるんだ！！！」という考えが確信に至り、この頃から、この「アフィリエイトで稼ぐ」事に、徹底的にお金と時間を使うようになりました。

諦めかけていた

- ・結婚をしたら、嫁さんや子供と、心安らかに暮らしたい。忙しい、お金がない、でピリピリした家庭は絶対に嫌だ
- ・家族や親戚、友達に何かあったときは助けてあげられる時間とお金の余裕が欲しい
- ・いつか自分でビジネスをしてみたい。そして自分が「これが俺の天職だ！」と思えるようなやりがいのある仕事をしたい

という、ささやかな願いを叶えられるビジネスが見つかったかもしれない！まだ成果が出ていたわけではありませんが、未来が開けたようで、本当に嬉しくてたまらない気持ちになったのを今でも鮮明に覚えています。

ネットビジネスに本気で取り組みはじめる

一番はじめに購入したインターネットビジネスの教材は、ある行政書士の方が販売されていた「ホームページ集客で成功する方法」のようなものだったと思います。確か、値段は8万円くらい。そこから、その方のノウハウのDVDを何回も繰り返して学び、メールサポートも何度か受けながら、どんどんネットビジネスの知識を吸収していきました。

そして「やはり知っている人に教えてもらう方が、独学より圧倒的に効率的だ」という考えに至り、ここからさらに「アフィリエイトで稼ぐ事」に特化したビジネススクールへ参加する事を決意しました。

そして、そのタイミングで、当時のネットビジネスの世界の有名人の方のメルマガで、まさに希望にピッタリのスクールの募集が始まりました。

このスクールは、半年の受講で40万円くらいが必要となる、自分にとってはそれまで投資した事の無いレベルのお金でしたが、そのスクールのカリキュラムを見て、もう興奮が抑えられず、ほんの2、3日迷った程度で、そこへの参加を決定しました。

(40万円というお金は、当時の私の貯金通帳にあったほぼ全額でした。)

そしてこのスクールへの入会とほぼ同時期に、会社に退職する意志を伝えました。

もちろん、この段階ではアフィリエイトで生計が立つところまで稼げるとは、思っていませんでしたが、こう考えていました。

「今の給料は残業や交通費込で手取り17万ちょっとでボーナスゼロ。で、かなりの時間を拘束されている。だが、もしアフィリエイトで月5万円でも稼げるようになれば、給料が12万円くらいに落ちてもいいので、定時で上がれて土日休める会社に転職すれば、夜にアフィリエイトに取り組む時間ができるので、収入はどんどん増やしていける！」

という考えでした。

このとき、貯金はスクールや教材に使いきってほぼゼロ。そして、ちょっとは出るのかと思っていた退職金も、事前にはっきりと「ゼロ」とのお知らせをいただいたので、退職後に2ヶ月で生活が成り立たなくなる計算がはっきり立ち、完全にお尻に火が着きました。

「会社を辞めたら、死ぬ気でネットビジネスに取り組んで稼ぐしかない！」

アフィリエイトに必死に取り組み成果を出す。そして素晴らしい先生（友人）達と出会う

そのスクールでは、さすが 40 万円というお金を払って入会している人たちが集う場所ですので、初回に開設された掲示板から、みんなのテンションがすごい！そして、飛び交う専門用語が、全くわからない（笑）という状態ながらも、私自身も大きな期待を持って入会をしましたので、積極的に質問や投稿をして参加していきました。

そして、スクールのサポートスタッフの方に毎日のようにメールをし、知識を吸収し、どんどんアフィリエイトの作業を進めていきました。

パソコン操作自体も全く詳しくない状態からのスタートでしたが、そのスクールでは、やれば本当に稼ぐことのできるノウハウがどんどん公開されていき、私のアフィリエイト報酬は、ちょっとずつですが、着実に増えていきました。

その甲斐もあって、平日仕事が終わってからの 22 時過ぎくらいの時間と、土日を使っての作業でしたが、会社を退職する月で、アフィリエイトの報酬は月額約 7 万円に伸びていました。

まだ生活できるレベルの収入ではありませんでしたが「手を動かした分確実に収入が増える」という自分なりのノウハウができていたので、あとは徹底的に作業を続けました。来月お金が足りなくなってバイトに行く事になってもいい、まずはトコトンやってみよう！と、会社を退職してからは、おそらく 1 日少なくとも 16 時間は作業をしていたと思います。

なので、2 ヶ月後には、キーボードの打ち過ぎで手首の皮膚が固くなり、それがかさぶたになってひび割れて血が出たりしていましたが、**名誉の負傷だ！**などとわけのわからないテンションで、その後もひたすら作業を続けました。

そして、退職した翌月には、15 万円までアフィリエイトの収入が増えました。なんとも奇跡的に首の皮一枚でつながり、バイトに出なくてよい状態になりました。

その後、スクールの第一期の 6 ヶ月が経過した頃、私のアフィリエイトの収入は、月額 50 万円というレベルに伸びていました。そして、なんと、その実績が塾長の耳に入り、次期のスクールでの講師まで依頼されました。

30 歳目前にして手取り 17 万、過労で高速道路で気絶して死にかけたワーキングプア時代と比較をすれば、まさに夢のような事が現実となりました。

そして、このスクールでたくさんの、同じ志を持つ人達と知り合えた事、そして、私などよりもはるかに実力のある、同期の講師の方々との縁ができた事で、知識のも格段に増え、気持ちの面でも「もっと上を目指したい！」という思いがさらに強くなり、そこからどんどん収入が伸びていきました。

インターネットビジネスの世界での初めての友人、埼玉の大恩人 Y。そして、収入が爆発するきっかけをくれた静岡の大恩人 2 人をはじめ、お世話になりすぎて「足を向けて寝られない」という恩人（友人）が、それこそ全国各地に増えていきました。（2013 年の今ではもう、日本で私が足を向けられる方角はどこにもない感じになっています（笑））

「この人たち、自分たちが苦勞して発見したお金を稼ぐ方法を、どうしてこんなに簡単に、そしてこんなに親切に教えてくれるのだろうか...？」インターネットビジネスの世界に入ってから、本当に、それまでの人生観では全く味わった事の無いような不思議な体験の連続、感謝、感謝の連続でした。まるで、これまで生きてきた世界とは全く違う、別世界で新しい人生を始めたような感覚でした。

そしてここからは、アフィリエイト以外にも並行して取り組んでいた、海外向け物販の方でも独自のアイデアがうまくいって、こちらでの収入も伸びてきました。

ただただ必死だった環境を脱し、インターネットビジネスを専業として 2 年後には、「インターネットビジネスで生計を立てるのが当たり前。そして、頑張ればまだまだ収入が伸びるのも当たり前。」という感覚になっていました。

そして、法人設立に至る

アフィリエイトや海外向けの物販ビジネスに取り組み、個人事業主として独立してから、2 年が経過していました。

そして、私の地元富山では、そういった仕事をしている人間はかなりの少数派でしたので、家業をついで経営者となっている友人や、これからネットショップを作りたいという知人から「インターネットって本当に稼げるの？」という感じで、いろいろな相談が来ました。

アフィリエイトや通販で、常に全国区を相手にしてきた私にとってみてれば、基礎の基礎から間違っているボロボロの HP を正しく整え、その HP を地域の中で上位表示させ、ある程度の売上をあげる という事は、はっきりいってかなり簡単な事でした。

そして、アドバイスした友人の友人から相談がきて、またその友人からも相談を受ける、という事が増えてきました。そして、実際にそこでの成功事例が増えていきました。

これまでいろいろやってお金も使い、それでも成果が出ていなかった方からは、

「お金をかけずに、こんなに早く結果が出るなんて信じられません。ありがとうございます！す！」と、熱烈に感謝されました。

そこまで、自宅で一人インターネットビジネスに取り組み、誰とも会わなくても仕事ができるというアングラな環境にあった私は、はじめて、自分の仕事と能力が、社会に認めてもらえた気がしました。

これらの体験を通して、「インターネットビジネスで成功したいと思いつつも、どうしてよいかわからず悩んでいる人はかなり多い。ノウハウの無いWEB業者に、数百万円の大金を払っているようなケースまである。もし自分が、インターネットビジネスの支援をする会社を立ち上げれば、もっと多くの人に喜んでもらえて、楽しい仕事ができるのではないか？」そんな思いが日々強くなっていきました。

そんな思いを持つようになった中、地元での縁で、当時WEB制作業をしていた、現クレアスタイルの創業パートナーと出会い、その後、一緒に法人を設立する事になりました。

そして設立後、

「デザイン、制作そのものが仕事なのではなく、インターネットで売上を上げる事が目的」

という理念のもと、

「自社でさまざまなジャンルのサイトを運営し、そこでの集客に成功しなければ、いろいろな業種のお客さんに、的確なアクセスアップ対策のアドバイスなどできるはずがない。」

「自社で通販をやっていないWEB制作会社が、お客さんに自信をもって通販のアドバイスなどできるはずがない。」

と考え、さらにいろいろなジャンルの情報サイトを作成し、自社でのネット通販もスタートしました。日々の相談で最も多いのが「うまくいっていない通販の立て直し」だったので、この自社通販運営での成功にも徹底的にこだわって取り組んでいきました。

そしてついに「年間売上1億円」まで到達する

そして初めての法人設立から4年目となる期に、小西の経営する会社でのネット通販の売上総額が「単年度で1億円」を達成しました。（通販専任スタッフは電話対応と受発注処理をするパート従業員1名という少人数体制での実現。）

「これまで取り組んできた事は間違いではなかった。」

「膨大な時間とお金と精神力をつぎ込んで積み上げてきた自社のノウハウが、確かなものであるという事が証明された。」

独立後、まさに全身全霊をもって仕事に取り組んできた事の、あるひとつの到達点に達したような気がして、本当に感慨深いものがありました。

インターネットビジネスというものに出会い、その可能性にかけて必死で努力をした結果、自分のような学歴も能力もなかったような人間でも、ここまで来る事ができた。

文字通り、インターネットビジネスは、私の人生を変えました。

そしてこの達成を期に

「もっと多くの方のビジネスの成功を支援したい！」

「良い商品を作っているながらも、集客がうまくいかず、売上に悩んでいる方を助けたい！」

そして、そのような、人のため・地域のためになる、やりがいのある仕事をしていきたい、という気持ちが、どんどん強くなっていきました。

「商売が下手だが、丹精込めた良い商品を愚直に作り続けている職人さんを応援したい。」

「美味しいのに、あまり知られていない地域の名産品などを全国に売る為の応援をしたい。」

そしてその成功の先にはきっと、また一段高い世界が見えてくるはず！！と。

やる事は同じ「WEB集客で売上を上げる事！」の追求なのですが、自分の中では、新たなステージでのビジネスをはじめるといったような気持ちになりました。

そして、この「集客ドリル」を立ち上げました。

「集客ドリル」制作の思い

この「集客ドリル」は、インターネットビジネスについても全くの無知だった当時の私のような超初心者の方から、独学で頑張ってみたものの、やはりなかなかうまくいかない.. という方のために、WEB集客の基礎レベルからの取り組み方を解説しています。

ドリル、宿題形式、という伝え方にしているのは、これまでご相談を受けた方々から、

「私のようなネットの素人は、書籍などを読んでもどれが重要な情報かわかりません。なので、まずは何をやって、次に何をすれば良いのか、ステップ・バイ・ステップで教えてください。やる事さえ明確になれば、頑張れますから！」

という言葉で、本当にたくさん頂いていた事がきっかけです。

なるほど、確かに自分がネットビジネスの世界に入った頃も、同じように思っていたな〜...と。

「うん、ではドリル、宿題形式にしよう！」と考えて、名前も集客ドリルとし、ステップ・バイ・ステップでWEB集客のための作業を進められる構成にしました。

今後、当社にWEB集客のご相談をいただくお客様にも、「まずはこの集客ドリルの実践からはじめてくださいね」と自信を持っておすすめができるよう、手抜きは一切なしの「本当に成果の出る具体的な内容」をお伝えしています。

インターネットビジネスに取り組んで約8年、そして法人設立後4年目にして、小資本、少人数の体制でありながら、自社のネット通販で年間1億円の売上を達成する過程で得た、集客・販売のノウハウを体系化したものが、この集客ドリルです。

実行していただく事で「確実に、一歩ずつ」WEBでの集客、インターネットビジネスでの成功へと近づいていきます。

当時、インターネットで稼ぐしか道がないと必死だった自分と同じように、「何としてもインターネットビジネスで成功したいんだ！」という熱意はありながらも、その方法がわからないという方のために...という想いも込めています。

このストーリーの序盤でもお話しているように、学生時代は全く勉強をしない、社会にでてからも鳴かず飛ばずだった平凡以下の人間でも、必死になってインターネットビジネスに取り組む事で、成功をする事ができました。（もちろん、まだまだこれからですが！）

つまり、正しい方法さえ見えてしまえば、**WEB集客で成功をして売上を伸ばす**という事は、それほど難しい事ではないのです。

あなたも、熱意と探究心を持ってチャレンジすれば、必ず成果を出す事ができます。

ぜひ、実践をして、無限の可能性の広がるインターネットビジネスの世界での成功を掴んでください。

そして、いつか「**集客ドリルがきっかけでインターネットビジネスに成功できました！**」というあなたとお会いし、ビジネスや人生のお話ができたら、私にとってこんなに嬉しい事はありません。